科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	満園庄太郎・堀越昭宏・麻生祥一郎	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				

【科目の目的】

課題曲１曲の歴史的背景を理解し、演奏法、音色作り、フレージングを習得してその曲を自身のレパートリーとできるようにする。ミュージシャンとしての基礎力を身につけつつ、基礎レッスンを通じて音楽全般に関する知識を深め、レベルに応じたトレーニングを行い、各種オーディションやコンテストに向けた準備と進め方を学び実践する。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A.課題曲１曲の歴史的背景について理解する。
B.課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングができる。
C.課題曲１曲を自身のレパートリーとすることができる。

【授業の注意点】

この科目は開講曜日により担当教員が異なります。
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲１曲の歴史的背景について理解する	課題曲１曲のアーティストについて理解する	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングができる	課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングがワンコーラス分演奏できる	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	課題曲１曲を自身のレパートリーとすることができる	課題曲１曲を譜面を読みながら演奏できる	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

ベース：　はじめてのジャズベース

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を講師と合奏を行い、
その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン１				年度	2024
英語表記	Basic lesson 1				学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	概要&課題曲①	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
2	課題曲①進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
3	課題曲①練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
4	課題曲②導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
5	課題曲②進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
6	課題曲②練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
7	課題曲③導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
8	課題曲③進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
9	課題曲③練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
10	課題曲④導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
11	課題曲④進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
12	課題曲④練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
13	課題曲まとめ	応用方法	1	課題曲の振り返り	各課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントを深く理解する		
			3	仕上がりの確認	各楽曲の仕上がりを確認できる		
14	前期試験	合奏	1	課題曲の合奏	課題曲の合奏ができる	3	
			2	他者の演奏分析	他者の演奏分析ができる		
			3	演奏の自己分析	演奏の自己分析ができる		
15	前期まとめ	復習の実践	1	フィードバック	フィードバックが理解できる	3	
			2	ポイントの再整理	ポイントの再整理ができる		
			3	今後への展望	今後への展望を理解する		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン１						年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1						学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	満園庄太郎・堀越昭宏・麻生祥一郎	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン			

【科目の目的】

課題曲１曲の歴史的背景を理解し、演奏法、音色作り、フレージングを習得してその曲を自身のレパートリーとできるようにする。ミュージシャンとしての基礎力を身につけつつ、基礎レッスンを通じて音楽全般に関する知識を深め、レベルに応じたトレーニングを行い、各種オーディションやコンテストに向けた準備と進め方を学び実践する。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A.課題曲１曲の歴史的背景について理解する。
B.課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングができる。
C.課題曲１曲を自身のレパートリーとすることができる。

【授業の注意点】

この科目は開講曜日により担当教員が異なります。
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲１曲の歴史的背景について理解する	課題曲１曲のアーティストについて理解する	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングができる	課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングがワンコーラス分演奏できる	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	課題曲１曲を自身のレパートリーとすることができる	課題曲１曲を譜面を読みながら演奏できる	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

ドラム：Progressive Steps to Syncopation for the Modern Drummer

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を講師と合奏を行い、
その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン１					年度	2024
英語表記	Basic lesson 1					学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	概要&課題曲①	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
2	課題曲①進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
3	課題曲①練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
4	課題曲②導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
5	課題曲②進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
6	課題曲②練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
7	課題曲③導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
8	課題曲③進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
9	課題曲③練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
10	課題曲④導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
11	課題曲④進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
12	課題曲④練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
13	課題曲まとめ	応用方法	1	課題曲の振り返り	各課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントを深く理解する		
			3	仕上がりの確認	各楽曲の仕上がりを確認できる		
14	前期試験	合奏	1	課題曲の合奏	課題曲の合奏ができる	3	
			2	他者の演奏分析	他者の演奏分析ができる		
			3	演奏の自己分析	演奏の自己分析ができる		
15	前期まとめ	復習の実践	1	フィードバック	フィードバックが理解できる	3	
			2	ポイントの再整理	ポイントの再整理ができる		
			3	今後への展望	今後への展望を理解する		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	満園庄太郎・堀越昭宏・麻生祥一郎	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				

【科目の目的】

課題曲１曲の歴史的背景を理解し、演奏法、音色作り、フレージングを習得してその曲を自身のレパートリーとできるようにする。ミュージシャンとしての基礎力を身につけつつ、基礎レッスンを通じて音楽全般に関する知識を深め、レベルに応じたトレーニングを行い、各種オーディションやコンテストに向けた準備と進め方を学び実践する。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A.課題曲１曲の歴史的背景について理解する。
B.課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングができる。
C.課題曲１曲を自身のレパートリーとすることができる。

【授業の注意点】

この科目は開講曜日により担当教員が異なります。
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のことととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲１曲の歴史的背景について理解する	課題曲１曲のアーティストについて理解する	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングができる	課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングがワンコーラス分演奏できる	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	課題曲１曲を自身のレパートリーとすることができる	課題曲１曲を譜面を読みながら演奏できる	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

キーボード：　キーボードバッキングのアイデア″即戦力″138

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を講師と合奏を行い、
その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン１	年度	2024
英語表記	Basic lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	概要&課題曲①	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
2	課題曲①進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
3	課題曲①練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
4	課題曲②導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
5	課題曲②進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
6	課題曲②練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
7	課題曲③導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
8	課題曲③進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
9	課題曲③練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
10	課題曲④導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
11	課題曲④進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
12	課題曲④練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
13	課題曲まとめ	応用方法	1	課題曲の振り返り	各課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントを深く理解する		
			3	仕上がりの確認	各楽曲の仕上がりを確認できる		
14	前期試験	合奏	1	課題曲の合奏	課題曲の合奏ができる	3	
			2	他者の演奏分析	他者の演奏分析ができる		
			3	演奏の自己分析	演奏の自己分析ができる		
15	前期まとめ	復習の実践	1	フィードバック	フィードバックが理解できる	3	
			2	ポイントの再整理	ポイントの再整理ができる		
			3	今後への展望	今後への展望を理解する		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	満園庄太郎・堀越昭宏・麻生祥一郎	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				

【科目の目的】

課題曲１曲の歴史的背景を理解し、演奏法、音色作り、フレージングを習得してその曲を自身のレパートリーとできるようにする。ミュージシャンとしての基礎力を身につけつつ、基礎レッスンを通じて音楽全般に関する知識を深め、レベルに応じたトレーニングを行い、各種オーディションやコンテストに向けた準備と進め方を学び実践する。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A.課題曲１曲の歴史的背景について理解する。
B.課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングができる。
C.課題曲１曲を自身のレパートリーとすることができる。

【授業の注意点】

この科目は開講曜日により担当教員が異なります。
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲１曲の歴史的背景について理解する	課題曲１曲のアーティストについて理解する	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングができる	課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングがワンコーラス分演奏できる	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	課題曲１曲を自身のレパートリーとすることができる	課題曲１曲を譜面を読みながら演奏できる	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

ギター：　エレキギターバッキングのアイデア″即戦力″135

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を講師と合奏を行い、
その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン１					年度	2024
英語表記	Basic lesson 1					学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	概要&課題曲①	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
2	課題曲①進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
3	課題曲①練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
4	課題曲②導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
5	課題曲②進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
6	課題曲②練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
7	課題曲③導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
8	課題曲③進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
9	課題曲③練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
10	課題曲④導入	楽曲把握	1	課題曲の紹介	課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントがわかる		
			3	仕上げまでの予定	仕上げまでの予定を立てることができる		
11	課題曲④進行	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	譜面の読み方	譜面の読み方がわかる		
			3	進行の確認	楽曲の進行の確認ができる		
12	課題曲④練習	フレージング	1	各楽器の奏法	各楽器の奏法が実行できる	3	
			2	音楽理論の把握	音楽理論の把握ができる		
			3	演奏のテンポアップ	演奏のテンポアップができる		
13	課題曲まとめ	応用方法	1	課題曲の振り返り	各課題曲を理解できる	3	
			2	楽曲のポイント	楽曲のポイントを深く理解する		
			3	仕上がりの確認	各楽曲の仕上がりを確認できる		
14	前期試験	合奏	1	課題曲の合奏	課題曲の合奏ができる	3	
			2	他者の演奏分析	他者の演奏分析ができる		
			3	演奏の自己分析	演奏の自己分析ができる		
15	前期まとめ	復習の実践	1	フィードバック	フィードバックが理解できる	3	
			2	ポイントの再整理	ポイントの再整理ができる		
			3	今後への展望	今後への展望を理解する		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	大野元毅・柿崎光	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				

【科目の目的】

音楽の基礎力を身につけるため、現代の音楽における録音の知見を獲得する。具体的には、ラインでの録音手法を利用してレコーディングが可能で、そのファイルの編集技術も実践的に身につける。同時に、基礎レッスンや音楽に関する基本的な知識の習得を通じて、ミュージシャンとしての基礎を築き上げ、個々のレベルに合わせたトレーニングを行う。これにより、各種オーディションやコンテストに臨む際の準備や進行方法も学び、実践的なスキルを身につける。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A.現代の音楽における録音の知見を得る。
B.ラインでの録音手法で、レコーディングができる。
C.レコーディングしたファイルにおける編集技術の実践ができる。

【授業の注意点】

この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標 A	課題曲１曲の歴史的背景について理解する	課題曲１曲のアーティストについて理解する	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングができる	課題曲１曲における演奏法・音色作り・フレージングがワンコーラス分演奏できる	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	課題曲１曲を自身のレパートリーとすることができる	課題曲１曲を譜面を読みながら演奏できる	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

適時、講師より教材を配布する。

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、期末提出物60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、
授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン１	年度	2024
英語表記	Basic lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	録音の理解①	録音の概念	1	録音の概念	録音の基礎を理解	3	
			2	録音の歴史	録音の歴史を学ぶ		
			3	現代の録音	現代の録音の価値を知る		
2	録音の理解②	録音の進化	1	マイクの基礎	録音技術の変遷を学ぶ	3	
			2	マイクプリ理解	歴史的背景を知る		
			3	オーディオ理解	録音の実用性を把握		
3	音響機材①	機材知識①	1	ダイナマイク１	マイクの機能を理解	3	
			2	ダイナレコーディング	マイクプリアンプの役割を知る		
			3	マイクの実習	オーディオインターフェイスを習得		
4	音響機材②	機材知識②	1	コンデンサー１	マイクの種類を分類	3	
			2	ADDA変換	ADDA変換の重要性を知る		
			3	スピーカー特性	スピーカーの原理を学ぶ		
5	ダイナミック①	マイクの理解	1	CUBASE基礎	Cubaseの起動法を理解する	3	
			2	波形編集理解	波形編集のテクニックを学ぶ		
			3	CUBASE実践	Cubaseの設定法を理解する		
6	ダイナミック②	マイクの理解	1	波形の加工	コンデンサーマイクの活用	3	
			2	オリジナルビート	レコーディング実践を行う		
			3	ビート作成実習	コンデンの特性を理解		
7	コンデンサー①	マイクの理解	1	ピッチ編集１	CUBASE基本操作を習得	3	
			2	CUBASEミックス	波形編集のテクニックを学ぶ		
			3	vari audio理解	CUBASEの応用を知る		
8	コンデンサー②	マイクの理解	1	録音進化	波形加工の方法を習得	3	
			2	録音技法	オリジナルビートを作成		
			3	現代録音技術	ピッチ編集の基礎を学ぶ		
9	DAW基礎	CUBASE入門	1	マイク応用	ミックスの方法を知る	3	
			2	ADDA変換	vari audioの理解を深める		
			3	スピーカー理解	高度なミックス技法を習得		
10	DAW応用	CUBASE上級	1	ダイナマイク２	提出物の講評を受ける	3	
			2	ダイナ特性	前期の内容を復習		
			3	ダイナの進化	音楽制作の流れを知る		
11	ビート制作①	MIDI入力	1	コンデンサー２	マイク選択の技術を習得	3	
			2	コンデン応用	録音機材の維持方法を学ぶ		
			3	特性の違い	録音セッティングを実践		
12	ビート制作②	MIDI入力	1	CUBASE応用	音の質を高める方法を学ぶ	3	
			2	高度編集	効果的なミックスを行う		
			3	エフェクト利用	音楽のアレンジを理解		
13	ピッチ編集①	オーディオ編集	1	波形応用	プロジェクトの管理を学ぶ	3	
			2	ビート進化	CUBASEの高度な機能を習得		
			3	アレンジ技法	楽器の録音テクニックを知る		
14	ピッチ編集②	オーディオ編集	1	ピッチ編集２	ボーカルの録音を実践	3	
			2	ミックス技法	音楽ジャンルの特徴を学ぶ		
			3	ピッチ調整	ミックスダウンの方法を習得		
15	まとめ	総括&評価	1	提出物講評	マスタリングの基礎を学ぶ	3	
			2	前期の復習	楽曲提出のポイントを把握		
			3	学期のまとめ	前期の内容を総括できる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	野村大輔・松川かの子	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				

【科目の目的】

音楽の基礎力を養うため、1つの音楽ジャンルにおいてリズム形態、テンポ、拍子、コード進行などを把握する。特に、1曲の課題曲内での即座の読譜力を身につけ、異なる演奏スタイルへの対応力を向上させるための知見を獲得する。基礎レッスンや音楽全般に関する知識を通じて、ミュージシャンとしての基礎を確立し、個々のレベルに合わせたトレーニングを行う。これにより、各種オーディションやコンテストに向けた準備と進行方法の学習を通して、実践的なスキルを身につける。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A.１種類の音楽ジャンル、リズム形態、テンポ、拍子、コード進行を把握する。B.１曲の課題曲の中で即座に対応できる読譜力を身につける。C.対応力のある演奏スタイルに関する知見を得る。

【授業の注意点】

この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標A	１種類の音楽ジャンル、リズム形態、テンポ、拍子、コード進行を把握する	１種類の音楽ジャンルを把握する	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標B	１曲の課題曲の中で即座に対応できる読譜力を身につける	１曲の課題曲を読譜できる	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標C	対応力のある演奏スタイルに関する深い知見を得る	対応力のある演奏スタイルに関する知見を得る	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

適時、講師より教材を配布する。

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を講師と合奏を行い、その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン１				年度	2024
英語表記	Basic lesson 1				学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	定番進行①	概要&コード1	1	譜面配布	楽譜の基礎が理解できる	3	
			2	楽譜読み方	譜面を正確に読める		
			3	楽譜解析	音楽の言語が理解できる		
2	定番進行②	定番進行練習	1	音符学習	音符の種類がわかる	3	
			2	休符学習	休符の遣い方ができる		
			3	音の特性学習	音の長さが理解できる		
3	セッション①	曲①読譜	1	パート分け	パート別に音が聞き分けられる	3	
			2	耳コピ	音の高さを記憶できる		
			3	音色確認	音楽の構成がわかる		
4	セッション①	曲①アナライズ	1	リズム重視	リズムを正確に取れる	3	
			2	演奏練習	演奏のリズムが整う		
			3	テクニック学習	曲のフレーズが良くなる		
5	セッション②	曲②読譜	1	譜面読譜	各パートで音の安定感が増す	3	
			2	パート分け	パート同士の調和が取れる		
			3	理論の確認	楽曲で使う理論を把握できる		
6	セッション②	曲②アナライズ	1	パート毎練習	各パートの演奏を仕上げる	3	
			2	音色確認	パートごとの特色が出る		
			3	発表技法	アンサンブル感が増す		
7	セッション③	曲③読譜	1	チーム編成	チームでの連携が向上する	3	
			2	チーム練習	演奏の練習が効率的になる		
			3	演奏スキル向上	チーム内のコミュニケーションが増す		
8	セッション③	曲③アナライズ	1	リズム討議	リズムの統一感が増す	3	
			2	ダイナミクス討議	ダイナミクスのバランスが取れる		
			3	音楽解釈	演奏に表情が増す		
9	セッション④	曲④読譜	1	チーム発表	演奏の技術が向上する	3	
			2	演奏評価	チームの協力が感じられる		
			3	表現方法学習	表現力が豊かになる		
10	セッション④	曲④アナライズ	1	シンコペ学習	シンコペーションの理解が深まる	3	
			2	タイと休符	休符の使い方が洗練される		
			3	意識的な演奏	曲のニュアンスが出る		
11	セッション⑤	曲⑤読譜	1	チーム分け	曲の深い部分が理解できる	3	
			2	曲解析	アナライズを基に歌が改善される		
			3	深掘り練習	練習がより具体的になる		
12	セッション⑤	曲⑤アナライズ	1	パフォーマンス	パフォーマンスの基礎ができる	3	
			2	ステージング	表現の幅が広がる		
			3	表現力向上	ステージングが向上する		
13	セッション⑥	曲⑥読譜	1	リズム確認	全体のリズムが安定する	3	
			2	ダイナミクス確認	ダイナミクスのコントロールができる		
			3	総合技法	パフォーマンスが一体となる		
14	セッション⑥	曲⑥アナライズ	1	授業発表	授業内容が総合的にわかる	3	
			2	発表技法	発表時の緊張が和らぐ		
			3	聞き手としての評価	演奏の完成度が高まる		
15	まとめ	総合実演	1	復習	前期の内容が確認できる	3	
			2	知識確認	スキルの定着を確認できる		
			3	スキル振り返り	成果を振り返れる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	野村大輔・松川かの子・郁川舞	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				

【科目の目的】

音楽の基礎力を養うため、1つの音楽ジャンルにおいてリズム形態、テンポ、拍子、コード進行などを把握する。特に、1曲の課題曲内での即座の読譜力を身につけ、異なる演奏スタイルへの対応力を向上させるための知見を獲得する。基礎レッスンや音楽全般に関する知識を通じて、ミュージシャンとしての基礎を確立し、個々のレベルに合わせたトレーニングを行う。これにより、各種オーディションやコンテストに向けた準備と進行方法の学習を通して、実践的なスキルを身につける。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A.１種類の音楽ジャンル、リズム形態、テンポ、拍子、コード進行を把握する。B.１曲の課題曲の中で即座に対応できる読譜力を身につける。C.対応力のある演奏スタイルに関する知見を得る。

【授業の注意点】

この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標A	１種類の音楽ジャンル、リズム形態、テンポ、拍子、コード進行を把握する	１種類の音楽ジャンルを把握する	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標B	１曲の課題曲の中で即座に対応できる読譜力を身につける	１曲の課題曲を読譜できる	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標C	対応力のある演奏スタイルに関する深い知見を得る	対応力のある演奏スタイルに関する知見を得る	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

適時、講師より教材を配布する。

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、１４回目または１５回目にて授業内発表を講師と合奏を行い、その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン1				年度	2024
英語表記	Basic lesson 1				学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	定番進行①	概要&コード1	1	楽器特徴学習	楽器特徴を理解する	3	
			2	機材の選定	適切な機材を選べる		
			3	機材の操作	機材の操作ができる		
2	定番進行②	定番進行練習	1	音の確認	各パートの音を知る	3	
			2	バンド編成	正確にパートを歌える		
			3	アンサンブル歌	アンサンブルが強化される		
3	セッション①	曲①演奏	1	構成の学習	前奏を完璧に理解する	3	
			2	前奏の練習	間奏を正確に把握する		
			3	間奏の練習	アウトロの構造を掴む		
4	セッション①	曲①即興	1	ダイナミクス学習	ダイナミクスを感じられる	3	
			2	感情の表現	表情豊かに演奏する		
			3	強弱の調整	感情を音に変換できる		
5	セッション②	曲②演奏	1	リズムの練習	スタッカートの理解	3	
			2	スタッカート学習	タイの正確な実行		
			3	タイの練習	リズムをしっかりキープ		
6	セッション②	曲②即興	1	パフォーマンス入門	ステージでの立ち振る舞い	3	
			2	ステージ動き	観客との繋がりを持つ		
			3	演出の工夫	演奏中の姿勢が良くなる		
7	セッション③	曲③演奏	1	音の再確認	各パートの音を再確認	3	
			2	バランスの取り方	音のバランスがとれる		
			3	アンサンブル練習	アンサンブルの進化		
8	セッション③	曲③即興	1	構成の再学習	構成要素を再度掴む	3	
			2	アウトロの練習	再度のアウトロ学習		
			3	繋ぎ方の工夫	曲全体の流れをつかむ		
9	セッション④	曲④演奏	1	ダイナミクス応用	ダイナミクスを自在に扱う	3	
			2	音量のコントロール	音量を適切に調整する		
			3	演奏の調整	各楽器の調和を深める		
10	セッション④	曲④即興	1	リズムの応用	16分のリズムを理解	3	
			2	リズムの発展	高度なリズムができる		
			3	16分のリズム	正確なリズムキープ		
11	セッション⑤	曲⑤演奏	1	本番に向けた練習	実際のリハーサル技法	3	
			2	総合的な確認	リハーサル中の注意点		
			3	リハーサルのポイント	効果的なリハーサル法		
12	セッション⑤	曲⑤即興	1	授業発表準備	実際の演奏を体験する	3	
			2	本番に向けて	発表技術を磨く		
			3	発表のコツ	グループでの連携を高める		
13	セッション⑥	曲⑥演奏	1	前期内容の確認	学んだことの振り返り	3	
			2	学んだ点の振り返り	前期の内容を整理する		
			3	成果の確認	自己評価ができる		
14	セッション⑥	曲⑥即興	1	曲の構造学習	曲の構造学習ができる	3	
			2	エンディング練習	エンディング練習ができる		
			3	楽曲の理解	楽曲が理解できる		
15	まとめ	総合実演	1	復習	復習の仕方がわかる	3	
			2	知識確認	知識確認ができる		
			3	スキル振り返り	スキル振り返りができる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	郁川舞	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				

【科目の目的】

3種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を磨き、楽譜の読み方を身につけながら音感やハーモニー感覚を向上させる。同時に、実践的な音楽的知識を身につける。ミュージシャンとしての基礎力を強化するために、基礎レッスンを受け、音楽全般に関する基礎知識を学ぶ。個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、各種オーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A. ３種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける。
B・３種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる。
C・３種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける。

【授業の注意点】

専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標 A	３種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を講師指定のテンポで演奏できる	３種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を任意のテンポで演奏できる	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	３種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる	３種類のKeyにおいて、楽譜を読む力が身に付く	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	３種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける	３種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を説明できる	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

配布プリント

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験50%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表30%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン１	年度	2024
英語表記	Basic lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	楽譜基礎	楽譜読譜入門	1	課題曲①解説	課題曲①を理解する	3	
			2	実習	実技演習ができる		
			3	楽譜基礎	楽譜の基礎が学べる		
2	旋律再現	演奏法	1	課題曲①解説	旋律の正確性向上	3	
			2	実習	楽譜を正確に読む		
			3	旋律再現	リズムを再現できる		
3	運指習得	運指技巧	1	課題曲①解説	複数の音を弾ける	3	
			2	実習	適切な運指習得		
			3	多音運指	高度な技術習得		
4	和音練習	和音演奏法	1	課題曲②解説	和音の基礎を掴む	3	
			2	実習	両手演奏に慣れる		
			3	両手演奏	総合技術向上		
5	音楽記号	音楽記号把握	1	課題曲②解説	臨時記号を読む	3	
			2	実習	調号の読解能力向上		
			3	臨時・調号	楽譜の深い理解		
6	調	概念理解	1	課題曲②解説	調の概念が分かる	3	
			2	実習	音楽の理論習得		
			3	調の概念	理論を実技に活かす		
7	中間発表	楽曲発表	1	中間発表	中間発表の経験	3	
			2	任意選曲	自選曲を披露する		
			3	実習	実技の総合力向上		
8	コード理解	演奏法	1	課題曲③解説	コード理論を知る	3	
			2	実習	コード演奏技術向上		
			3	コード知識	基礎からの応用習得		
9	コード演奏	演奏法	1	課題曲③解説	フレーズ分析の基礎	3	
			2	実習	音楽構造の理解深化		
			3	コード演奏	実技と理論の連携		
10	フレーズ分析１	分析法	1	課題曲③解説	フレーズの制作技術	3	
			2	実習	制作から発表まで		
			3	フレーズ分析1	高度な分析能力習得		
11	作曲初歩	作曲法	1	課題曲④解説	フレーズ制作の深化	3	
			2	実習	独自性の追求		
			3	フレーズ制作1	制作技術の向上		
12	フレーズ分析2	分析法	1	課題曲④解説	実技試験の対策	3	
			2	実習	試験曲の選択と練習		
			3	分析&発表	総合力での対応能力		
13	作曲応用	作曲法	1	課題曲④解説	授業内の実技試験	3	
			2	実習	講師指定課題の習得		
			3	フレーズ制作2	前期の総合復習		
14	試験対策	試験前学習	1	発表	理解を深める分析	3	
			2	実技対策	表現力の向上		
			3	曲選択	クリエイティブ思考		
15	期末試験	総仕上げ	1	実技試験	技術の精度向上	3	
			2	講師指定曲	自己評価の能力		
			3	前期まとめ	パフォーマンス力向上		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	永田範正	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター				

【科目の目的】

課題曲に取り組むことで基礎的な演奏力を向上させ、同時に専攻分野における奏法を学び、演奏者としての知識を習得する。基礎レッスンや音楽全般に関する基礎知識の習得を通じて、ミュージシャンとしての基礎力を養う。個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A.課題曲１曲に関して、基礎的演奏力を体得している。B.課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している。C.学内発表の範囲内で、演奏法に、再現性が見込める。

【授業の注意点】

専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標A	課題曲1曲に関して、基礎的演奏力を体得している	課題曲1曲を演奏できる	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標B	課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している	課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法を理解している	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標C	学内発表の範囲内で、演奏法に再現性が見込める	楽曲の譜面を書くことができる	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

講師作成のリードシート、課題曲のリードシート。

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン１					年度	2024
英語表記	Basic lesson 1					学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	楽器と奏法	基本形	1	16分音符読譜	16分音符を理解する	3	
			2	ベースライン1	ベースラインを演奏する		
			3	名曲演奏	名曲の技法を習得する		
2	チューニング	メンテナンス	1	複雑キー読譜	複雑なキーを読解する	3	
			2	ベースライン2	ベースライン技術向上		
			3	名曲演奏	名曲のリズムを掴む		
3	ピック奏法	機材の理解	1	テンション読解	テンションコードを理解	3	
			2	コード名理解	コード名を読む技能		
			3	分散和音	分散和音の基礎を学ぶ		
4	コード理論	和音の構築	1	チャーチモード	チャーチモードの理論	3	
			2	スケール習得	モードスケールの習得		
			3	理論実践	実践演奏をする技術		
5	8分音符読譜	読譜とスラップ	1	リードシート1	リードシートの読譜	3	
			2	ベースライン作	ベースライン初歩習得		
			3	Key=C基礎	Key=Cでの演奏技術		
6	スラップ奏法	ベースライン1	1	リードシート2	リードシートの応用	3	
			2	ベースライン作	ベースライン応用習得		
			3	Key=C応用	Key=Cでの発展技術		
7	名曲ベース1	ベースライン2	1	理解度チェック	授業内容の確認・振返	3	
			2	進度確認	理解度の深化を図る		
			3	フィードバック	自己評価の方法を学ぶ		
8	名曲ベース2	演奏解析	1	自作曲ブラッシュ	自作・課題曲の理解	3	
			2	ベースライン3	ベースラインのブラッシュ3		
			3	改善実践	曲の深い理解と技術		
9	リードシート1	演奏解析	1	自作曲ブラッシュ	自作・課題曲の応用	3	
			2	ベースライン4	ベースラインのブラッシュ4		
			3	改善実践	曲への感受性を高める		
10	リードシート2	演奏解析	1	ワンコード理解	ワンコードの基礎	3	
			2	アドリブ演奏	アドリブ演奏の技術		
			3	ベースソロ	ベースソロを実践する		
11	ベース改善1	演奏解析	1	レコ実習1	レコーディングの初歩	3	
			2	音作り	音の調整技術を学ぶ		
			3	モニター環境	モニター環境を理解する		
12	理解度チェック	発表の準備	1	レコ実習2	リズムとピッチの録音	3	
			2	リズム録音	正確なレコーディング技術		
			3	ピッチ録音	音楽制作の一歩を学ぶ		
13	修正と発表	問題点の洗い出し	1	録音問題修正	レコの問題点を特定	3	
			2	自己評価	個別の修正技術を学ぶ		
			3	改善策探求	実践を通じての理解深化		
14	演奏発表	アドリブ技法	1	習得内容発表	前・後期内容の理解	3	
			2	前後期比較	習得内容の発表技術		
			3	演奏・評価	授業の振り返りと評価		
15	前期まとめ	学習の総括	1	後期まとめ	後期内容の総括	3	
			2	総括	成果の共有と展望		
			3	次期展望	次の段階への準備を図る		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	杉本清隆	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				

【科目の目的】

課題曲に取り組むことで基礎的な演奏力を向上させ、同時に専攻分野における奏法を学び、演奏者としての知識を習得する。基礎レッスンや音楽全般に関する基礎知識の習得を通じて、ミュージシャンとしての基礎力を養う。個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A.課題曲１曲に関して、基礎的演奏力を体得している。B.課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している。C.学内発表の範囲内で、演奏法に、再現性が見込める。

【授業の注意点】

専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標A	課題曲1曲に関して、基礎的演奏力を体得している	課題曲1曲を演奏できる	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標B	課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している	課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法を理解している	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標C	学内発表の範囲内で、演奏法に再現性が見込める	楽曲の譜面を書くことができる	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

配布プリント、講師作成リードシート、ドラムスティックは各自で用意すること

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="4">ベーシックレッスン１</td><td>年度</td><td>2024</td></tr>
<tr><td>英語表記</td><td colspan="4">Basic lesson 1</td><td>学期</td><td>前期</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>各授業の目的</th><th colspan="2">授業内容</th><th>到達目標＝修得するスキル</th><th>評価方法</th><th>自己評価</th></tr>
<tr><td rowspan="3">1</td><td rowspan="3">基礎知識１</td><td rowspan="3">楽器設定</td><td>1</td><td>楽器知識１</td><td>楽器の基本知識習得</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>セッティング１</td><td>セッティング方法理解</td></tr>
<tr><td>3</td><td>基礎チェック</td><td>正しいフォーム習得</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">基礎知識２</td><td rowspan="3">応用設定</td><td>1</td><td>楽器知識２</td><td>楽器の知識深化</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>セッティング２</td><td>セッティング応用習得</td></tr>
<tr><td>3</td><td>フォーム確認</td><td>フォームの確認ができる</td></tr>
<tr><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3">ヒヤリング</td><td rowspan="3">耳コピ練</td><td>1</td><td>ヒヤリング１</td><td>ヒヤリング技術習得</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>疑問解消</td><td>楽曲疑問点解消能力</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ドラムアレンジ１</td><td>ドラムアレンジができる</td></tr>
<tr><td rowspan="3">4</td><td rowspan="3">ビート作成１</td><td rowspan="3">フレーズ創作</td><td>1</td><td>ビート作成１</td><td>基本ビート作成能力</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>アレンジヒント１</td><td>アレンジへの応用力</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ビート練習１</td><td>ビートのバリエーション習得</td></tr>
<tr><td rowspan="3">5</td><td rowspan="3">ビート作成２</td><td rowspan="3">フレーズ創作</td><td>1</td><td>ビート作成２</td><td>応用ビート作成能力</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>アレンジヒント２</td><td>アレンジ応用力強化</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ビート練習２</td><td>高度なビート練習</td></tr>
<tr><td rowspan="3">6</td><td rowspan="3">演奏調整</td><td rowspan="3">タイミング</td><td>1</td><td>オリジナル演奏</td><td>クリックに合わせ演奏力</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>クリック練習</td><td>タイミング維持の技術習得</td></tr>
<tr><td>3</td><td>オリジナル演技</td><td>オリジナル曲演奏力向上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">7</td><td rowspan="3">音源演奏</td><td rowspan="3">音源活用法</td><td>1</td><td>マイナスワン演奏１</td><td>マイナスワンでの演奏能力</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>テクニック練習</td><td>聞き取り技術の向上</td></tr>
<tr><td>3</td><td>中間発表</td><td>リズム認識能力強化</td></tr>
<tr><td rowspan="3">8</td><td rowspan="3">自己計画</td><td rowspan="3">練習計画策定</td><td>1</td><td>スケジュール作</td><td>中間発表の準備力</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>目標設定</td><td>効果的なスケジュール作成</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ヒヤリング２</td><td>独自の目標設定ができる</td></tr>
<tr><td rowspan="3">9</td><td rowspan="3">解析＆練習</td><td rowspan="3">耳コピ実践</td><td>1</td><td>疑問解消２</td><td>高度ヒヤリング技術</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>ドラムアレンジ２</td><td>オリジナルアレンジ応用力</td></tr>
<tr><td>3</td><td>キメ作成</td><td>進化したドラムアレンジ力</td></tr>
<tr><td rowspan="3">10</td><td rowspan="3">テクニック</td><td rowspan="3">アクセント</td><td>1</td><td>演奏テクニック</td><td>キメ作成の技術習得</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>キメ練習</td><td>高度な演奏テクニック</td></tr>
<tr><td>3</td><td>クリック演奏</td><td>リズムのニュアンス習得</td></tr>
<tr><td rowspan="3">11</td><td rowspan="3">クリック演奏</td><td rowspan="3">演奏実践</td><td>1</td><td>多様クリック練習</td><td>多様なクリック演奏力</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>リズムトレーニング</td><td>リズムの多様性習得</td></tr>
<tr><td>3</td><td>マイナスワン演奏２</td><td>正確なタイミング保持</td></tr>
<tr><td rowspan="3">12</td><td rowspan="3">音源合わせ</td><td rowspan="3">演奏実践</td><td>1</td><td>パフォーマンス練</td><td>マイナスワン応用演奏力</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>発表準備</td><td>完璧な発表の準備能力</td></tr>
<tr><td>3</td><td>パフォーマンス発表</td><td>確実なパフォーマンス力</td></tr>
<tr><td rowspan="3">13</td><td rowspan="3">発表準備</td><td rowspan="3">リハーサル法</td><td>1</td><td>リハーサル練習</td><td>発表技術の習得</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>反省と振り返り</td><td>オリジナル作品の評価力</td></tr>
<tr><td>3</td><td>授業全体のまとめ</td><td>授業内容の総括能力</td></tr>
<tr><td rowspan="3">14</td><td rowspan="3">最終発表</td><td rowspan="3">パフォーマンス</td><td>1</td><td>次回への意欲</td><td>次回への進行プラン作成</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>演奏の深化</td><td>効果的なフィードバック収集</td></tr>
<tr><td>3</td><td>楽器維持知識</td><td>アーティストとしての立ち位置</td></tr>
<tr><td rowspan="3">15</td><td rowspan="3">総括</td><td rowspan="3">総評フィードバック</td><td>1</td><td>アドバンス練習</td><td>アドバンス練習ができる</td><td rowspan="3">3</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>2</td><td>総評の理解</td><td>総評の理解ができる</td></tr>
<tr><td>3</td><td>今後への展望</td><td>今後への展望がわかる</td></tr>
<tr><td colspan="8">評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった</td></tr>
<tr><td colspan="8">備考 等</td></tr>
</table>

科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	杉本清隆	教員の実務経験	有	実務経験の職種	ミュージシャン				

【科目の目的】

課題曲に取り組むことで基礎的な演奏力を向上させ、同時に専攻分野における奏法を学び、演奏者としての知識を習得する。基礎レッスンや音楽全般に関する基礎知識の習得を通じて、ミュージシャンとしての基礎力を養う。個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A.課題曲１曲に関して、基礎的演奏力を体得している。B.課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している。C.学内発表の範囲内で、演奏法に、再現性が見込める。

【授業の注意点】

専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標A	課題曲1曲に関して、基礎的演奏力を体得している	課題曲1曲を演奏できる	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標B	課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している	課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法を理解している	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標C	学内発表の範囲内で、演奏法に再現性が見込める	楽曲の譜面を書くことができる	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

配布プリント、講師作成リードシート

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン１	年度	2024
英語表記	Basic lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	バラード理解	バラード基礎	1	音色理解	ピアノ音色理解	3	
			2	バラード研究	バラードボイシング		
			3	ボイシング学	適切なアプローチ		
2	バラードソロ演奏	コードスケール	1	1回技術活用	ピアノのみ演奏法	3	
			2	ピアノ独奏	バラードバッキング		
			3	バラード演奏	1回目技術習得		
3	バンド内バラード	バンド演習	1	1、2回技術	バンド内演奏理解	3	
			2	バンド編成	バラード演奏実践		
			3	バラード演奏	1,2回技術活用		
4	Rock理解	Rock基礎理解	1	音色理解	Rock曲の理解	3	
			2	Rock曲研究	ピアノ音色活用		
			3	アプローチ学	適切なアプローチ		
5	Rockソロ演奏	コードスケール	1	4回技術活用	Rock風演奏習得	3	
			2	ピアノRock	4回目技術活用		
			3	バッキング練習	バッキングパターン		
6	Rockシンセ演奏	Rockシンセ	1	シンセ理解	シンセサイザー理解	3	
			2	オルガン活用	オルガン・ストリングス		
			3	Rock曲演奏	Rock風合わせ技法		
7	Funk理解	Funk基礎理解	1	音色理解	Funk曲の理解	3	
			2	Funk曲研究	ピアノ音色活用		
			3	アプローチ学	適切なアプローチ		
8	Funkソロ演奏	コードスケール	1	7回技術活用	Funk風演奏習得	3	
			2	ピアノFunk	7回目技術活用		
			3	バッキング練習	バッキングパターン		
9	Funkシンセ演	Funkシンセ技	1	シンセ理解	シンセサイザー技法	3	
			2	Clavinet活用	Clavinet・エレピ		
			3	Funk曲演奏	Funk曲合わせ演奏		
10	Jazz理解	Jazz基礎	1	音色理解	Jazz曲の理解	3	
			2	Jazz曲研究	ピアノ音色活用		
			3	アプローチ学	適切なアプローチ		
11	Jazzソロ演奏	コードスケール	1	10回技術活用	Jazz風演奏習得	3	
			2	ピアノJazz	10回目技術活用		
			3	バッキング練習	バッキングパターン		
12	Jazzボイシング	Jazzボイス比較	1	エレピ活用	エレピバッキング理解	3	
			2	11回ボイシング	11回技術の違い掴む		
			3	Jazz風練習	メジャーアドリブ		
13	メジャーアドリブ	モチーフ展開	1	メジャーアドリブ	キー活用技術	3	
			2	コード理解	アドリブ演奏習得		
			3	演奏訓練	マイナーアドリブ		
14	マイナーアドリブ	モチーフ展開	1	マイナーアドリブ	キー活用技術	3	
			2	コード理解	アドリブ演奏習得		
			3	演奏訓練	技術の統合理解		
15	授業内試験	発表会	1	8-14回活用	8-14回技術活用	3	
			2	発表会準備	発表会の準備ができる		
			3	自由曲演奏	発表会で自由曲が演奏できる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	恒枝賢治	教員の実務経験		有	実務経験の職種	ミュージシャン、プロデューサー、レコーディングエンジニア、音源制作			

【科目の目的】

課題曲に取り組むことで基礎的な演奏力を向上させ、同時に専攻分野における奏法を学び、演奏者としての知識を習得する。基礎レッスンや音楽全般に関する基礎知識の習得を通じて、ミュージシャンとしての基礎力を養う。個々のレベルに合わせたトレーニングを行い、様々なオーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A.課題曲１曲に関して、基礎的演奏力を体得している。B.課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している。C.学内発表の範囲内で、演奏法に、再現性が見込める。

【授業の注意点】

専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標A	課題曲1曲に関して、基礎的演奏力を体得している	課題曲1曲を演奏できる	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標B	課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法をふまえた、演奏者としての知識を習得している	課題曲１曲に関して、専攻分野における奏法を理解している	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標C	学内発表の範囲内で、演奏法に再現性が見込める	楽曲の譜面を書くことができる	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

譜面、音源、映像等適宜用意。ギター、チューナー、シールド、ピック等の楽器や必需品を各自用意。カポタストと替えの弦は必ずギターケースに入れておくこと。

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン１	年度	2024
英語表記	Basic lesson 1	学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	志向確認・機材	技術説明	1	志向・レベル確認	志向・レベル確認ができる	3	
			2	演奏技術説明	演奏技術説明がわかる		
			3	機材の解説	機材の解説ができる		
2	リードシート	シート読み取り	1	リードシート読解	リードシート読解ができる	3	
			2	1曲演奏	1曲演奏ができる		
			3	音名把握	音名把握ができる		
3	初級コード演奏	リズムの基礎	1	リズムの基礎	リズムの基礎がわかる	3	
			2	ピッキング	ピッキングができる		
			3	リズムキープ	リズムキープができる		
4	リズムキープ	テクニック習得	1	ストローク技法	ストローク技法がわかる	3	
			2	ブラッシング	ブラッシングができる		
			3	ミュート技法	ミュート技法がわかる		
5	ピッキング練習	曲作成の原理	1	オリジナル曲作成	オリジナル曲作成ができる	3	
			2	コードの基礎	コードの基礎がわかる		
			3	作曲のコツ	作曲のコツがわかる		
6	曲作成	ペンタ応用	1	ポジショニング	ポジショニングがわかる	3	
			2	マイナーペンタ	マイナーペンタがわかる		
			3	応用練習	応用練習ができる		
7	マイナーペンタ	ブルース練習	1	ブルース基礎	ブルース基礎がわかる	3	
			2	マイナーペンタ	マイナーペンタがわかる		
			3	メジャーペンタ	メジャーペンタがわかる		
8	ブルース	ペンタ変換技法	1	コード組立	コード組立ができる	3	
			2	仕組み解説	仕組み解説がわかる		
			3	コードブック確認	コードブック確認の意義がわかり、記載内容を暗記できる		
9	ペンタ転換練習	コードの構造	1	楽曲練習1	楽曲練習1ができる	3	
			2	アドバイス1	アドバイス1がわかる		
			3	技術説明1	技術説明1がわかる		
10	コード組み立て	実曲応用１	1	楽曲練習2	楽曲練習2ができる	3	
			2	アドバイス2	アドバイス2がわかる		
			3	技術説明2	技術説明2がわかる		
11	楽曲練習１	実曲応用２	1	音作りのコツ	音作りのコツがわかる	3	
			2	ミックス意識	ミックスを意識して演奏ができる		
			3	バンドアンサンブル	バンドアンサンブルがわかる		
12	楽曲練習２	サウンド調整法	1	楽曲練習3	楽曲練習3ができる	3	
			2	アドバイス3	アドバイス3がわかる		
			3	技術説明3	技術説明3がわかる		
13	音作りのコツ	実曲応用３	1	楽曲練習4	楽曲練習4ができる	3	
			2	アドバイス4	アドバイス4がわかる		
			3	技術説明4	技術説明4がわかる		
14	楽曲練習３	実曲応用４	1	楽曲練習5	楽曲練習5ができる	3	
			2	アドバイス5	アドバイス5がわかる		
			3	技術説明5	技術説明5がわかる		
15	授業まとめ	授業全体の振り返り	1	総括	総括がわかる	3	
			2	フィードバック	フィードバックがわかる		
			3	次回プラン	次回プランを組み立てることができる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	ベーシックレッスン１							年度	2024
英語科目名	Basic lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 プレイヤーコース 1年次	必／選	必	時間数	210	単位数	7	種別※	実習
担当教員	河原レオ・南慶樹	教員の実務経験	有	実務経験の職種	作編曲				

【科目の目的】

特定のジャンルに合わせた作曲と編曲の技術を身につけ、DAWや指定されたデジタルアプリケーションを操作し、2mixデータを提出できるスキルを磨く。ミュージシャンとしての基礎力を向上させ、基礎レッスンを通じて音楽全般に関する基礎知識を得る。個々のレベルに応じたトレーニングを実施し、様々なオーディションやコンテストに備え、その進行方法を学び実践する。

【科目の概要】

ミュージシャンとしての基礎力を身につけるため、基礎レッスンを行うとともに、音楽全般に関する基礎知識を学んでいきます。また、ソロやバンドなど希望とレベルにあわせたトレーニングを実施。各種オーディションを受けるにあたっての準備、進め方を学び、実践していきます。

【到達目標】

A. １種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につけること
B・１種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること
C・DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法を2mixデータが提出できる範囲で身に着けること

【授業の注意点】

専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル１ 要努力
到達目標 A	１種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につける	１種類のジャンルに合わせた作曲の技術を説明できる	到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	１種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につける	１種類のジャンルに合わせた編曲の技術を説明できる	到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法を2mixデータが提出できる範囲で身に着ける	DAW並びに授業指定のデジタルアプリケーションの操作方法を2mixデータが提出できる範囲で説明できる	到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

講師オリジナル教材など

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物課題60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)
平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	ベーシックレッスン１					年度	2024
英語表記	Basic lesson 1					学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題①入門	楽曲基礎理解	1	課題曲①紹介	課題曲①の概要理解	3	
			2	基本制作法	基本的構造把握		
			3	楽曲構造	メロディの要素認識		
2	課題①基礎	音楽構造習得	1	課題曲①分析	課題曲①の解析技法習得	3	
			2	コード進行	リズムの基礎知識		
			3	リズム感得	ハーモニーの理解深化		
3	課題①形成	旋律作成	1	課題曲①練習	楽曲のメロディ作成能力	3	
			2	メロディ作成	楽曲背景知識習得		
			3	アレンジ法	楽器役割の理解		
4	課題①解析	和声理論	1	課題曲①応用	楽曲制作の全体像把握	3	
			2	楽器選定	コード構築能力習得		
			3	ダイナミクス	アレンジメント基礎		
5	課題①応用	リズム実践	1	課題曲①発表	楽曲の完成形態理解	3	
			2	評価方法	楽曲評価基準知識		
			3	フィードバック	改善点の特定能力		
6	課題①調整	創造力活用	1	課題曲①改善	課題曲②の概要理解	3	
			2	再構築法	応用的構造把握		
			3	エフェクト利用	複雑リズムの解析能力		
7	課題①修正	アレンジ法	1	課題曲①完成	和声の拡張知識習得	3	
			2	録音技法	テクスチャー理解強化		
			3	ミックス調整	楽曲の変化・発展認識		
8	課題②入門	楽曲改良	1	課題曲②紹介	複雑メロディ作成能力	3	
			2	進行変更	ブリッジ部分構築能力		
			3	サウンド選択	アレンジの応用知識		
9	課題②基礎	楽曲分析	1	課題曲②分析	楽曲発表の準備能力	3	
			2	和声技法	楽曲の詳細な評価技法		
			3	テクスチャー	音楽制作の最終調整能力		
10	課題②形成	アレンジ法	1	課題曲②練習	リズムとメロディ統合	3	
			2	曲の展開法	楽曲のテーマ設定能力		
			3	ブリッジ作成	楽曲の変更・修正技法		
11	課題②解析	音響テクニック	1	課題曲②応用	楽曲全体の流れ理解	3	
			2	音域活用	リスニング技法習得		
			3	モチーフ展開	楽曲の構造変更能力		
12	課題②応用	レコーディング	1	課題曲②発表	楽曲の表現力向上策	3	
			2	実践的評価	音色選択の基本知識		
			3	リスニング会	楽器の演奏法理解		
13	課題②調整	音楽表現	1	課題曲②改善	曲構造の創造的変更能力	3	
			2	音色調整	アレンジの最終調整		
			3	エディット技法	MIDI編集技術習得		
14	課題②修正	作品評価	1	課題曲②完成	マスタリングの基礎	3	
			2	最終ミックス	音楽のジャンル理解		
			3	マスタリング	コードの応用技法		
15	総合復習	実用化指南	1	課題曲評価	リミックス技術習得	3	
			2	ポートフォリオ	楽曲プレゼンテーション技法		
			3	フィナルレビュー	レビューを通じて今後への展望が把握できる		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等